

表1. 調査票の記入者・回答方法

n= 240 単位:人(%)

記入者			
	本人	227	(94.6)
	家族	1	(0.4)
	その他支援者	8	(3.3)
	無回答	4	(1.7)
回答方法			
	本人自身ですべて記入	178	(74.2)
	家族・支援者と一緒に記入	54	(22.5)
	全て家族・支援者が実施	2	(0.8)
	無回答	4	(1.7)

表2. 協力者の基本属性

n= 240 単位:人(%)

性別			
	男性	151	(62.9)
	女性	82	(34.2)
	無回答	7	(2.9)
年齢			
	20代	32	(13.3)
	30代	57	(23.8)
	40代	55	(22.9)
	50代	48	(20.0)
	60代	38	(15.8)
	70代	2	(0.8)
	無回答	8	(3.3)
居住地			
	福島県内	234	(97.5)
	福島県外	3	(1.3)
	無回答	3	(1.3)
居住形態			
	グループホーム・ケアホーム	97	(40.4)
	持家	93	(38.8)
	借家・アパート	38	(15.8)
	仮設住宅	5	(2.1)
	借り上げ住宅	5	(2.1)
	その他	1	(0.4)
	無回答	1	(0.4)
同居者の有無			
	同居者あり	178	(74.2)
	同居者なし(単身)	52	(21.7)
	無回答	10	(4.2)
		同居人数(n=178)	
		1人	5 (2.8)
		2~4人	88 (43.4)
		5~9人	51 (28.6)
		10名以上	12 (6.7)
		無回答	22 (12.4)
		同居者(n=178)※	
		親	95 (53.4)
		きょうだい	43 (24.2)
		祖父母	16 (9.0)
		妻/夫	7 (3.9)
		子ども	8 (4.5)
		その他親戚	1 (0.6)
		当事者仲間	33 (18.5)
		知人・友達・恋人	7 (3.9)
		その他	29 (16.3)
		無回答	3 (1.7)

※は複数回答項目

表3. 精神疾患等に関する状況

n= 240 単位:人(%)

自身の障害を知っているか		疾患名(n=208)※	
知っている	208 (86.7)	統合失調症	129 (62.0)
知らない	13 (5.4)	そううつ病	49 (23.6)
聞いたが忘れた	13 (5.4)	統合失調感情障害	5 (2.4)
無回答	6 (2.5)	神経症	17 (8.2)
		認知症	2 (1.0)
		発達障害	14 (6.7)
		その他	33 (15.9)
		無回答	4 (1.9)
<hr/>			
発症年齢			
10歳未満	6 (2.5)		
10代	67 (27.9)		
20代	82 (34.2)		
30代	40 (16.7)		
40代	15 (6.3)		
50代	6 (2.5)		
60代	1 (0.4)		
無回答	23 (9.6)		
<hr/>			
障害手帳所持状況※		精神保健福祉手帳(n=160)	
精神保健福祉手帳	159 (77.6)	1級	9 (5.7)
身体障害者手帳	34 (16.6)	2級	109 (68.6)
療育手帳	20 (9.8)	3級	34 (21.4)
無回答	6 (2.9)	<hr/>	
		身体障害者手帳(n=34)	
		1級	3 (8.8)
		2級	20 (58.8)
		3級	6 (17.6)
		4級	1 (2.9)
		5級	1 (2.9)
		無回答	3 (8.8)
		<hr/>	
		療育手帳(n=20)	
		2級	12 (60.0)
		B判定	5 (25.0)
		無回答	3 (15.0)

※は複数回答項目

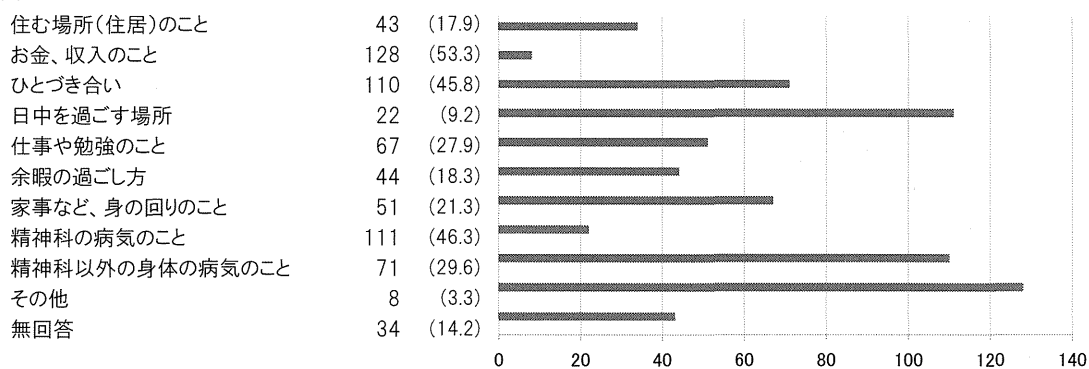
表4. 地域生活に関する状況

n= 240 単位:人(%)

日中の過ごし方		日中過ごす場所(n=192)※	
仕事・学校などに通っている	151 (62.9)	福祉関係の事業所、 地域活動支援センター	126 (65.6)
福祉関連施設・事業所、病院デイケアなどに通っている (その他の項目に記入した者)	41 (17.1)	仕事・学校	28 (14.6)
家にいて何もしていない	13 (5.4)	作業所	19 (9.9)
家にいて家事をしている	10 (4.2)	病院デイケア	12 (6.3)
その他	17 (7.1)	その他	14 (7.3)
無回答	4 (1.7)		

収入状況		収入内訳(n=211)	
定期的な収入あり	196 (81.7)	障害年金または老齢年金	143 (67.8)
不定期的な収入あり	15 (6.3)	作業所の工賃	126 (59.7)
なし	19 (7.9)	生活保護	55 (26.1)
無回答	10 (4.2)	両親/兄弟姉妹の小遣い	32 (15.2)
		会社やアルバイトの給料	13 (6.2)
		震災関係の補償金など	17 (8.1)
		夫/妻の収入	4 (1.9)
		その他	9 (4.3)

生活で困っていること※



※は複数回答項目

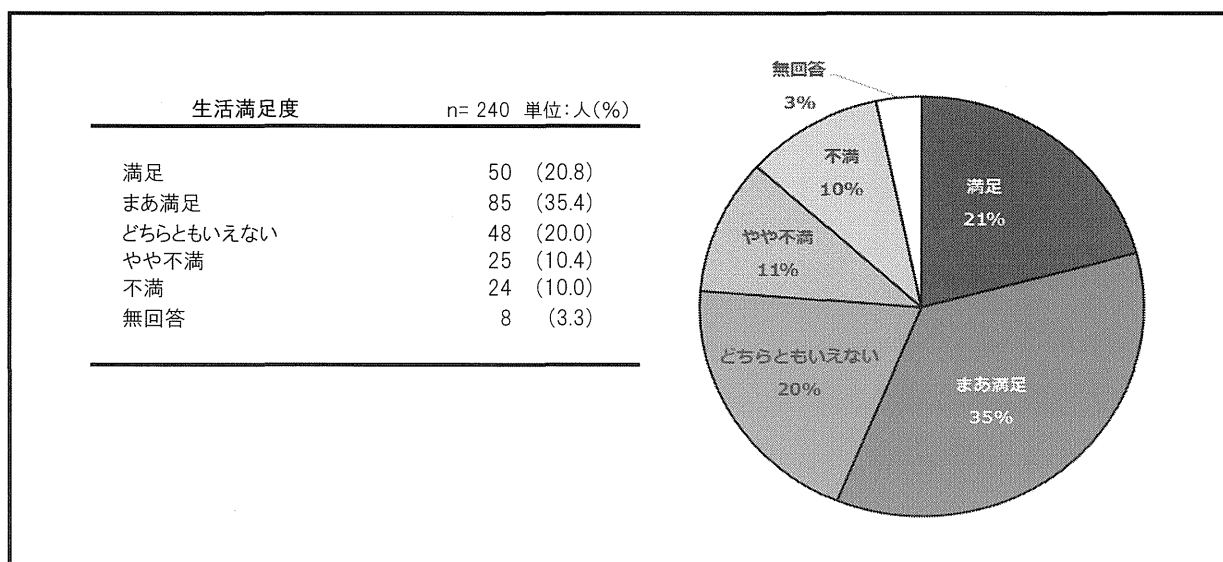


図5. 生活満足度の集計結果

表6. 協力者の精神科医療の利用状況

n= 240 単位:人(%)

精神科医療機関の受診状況		受診機関(n=226)	
かかっている	226 (94.2)	大学病院の精神科	71 (31.4)
かかっていない	13 (5.4)	精神科・神経科の診療所(クリニック)	30 (13.3)
無回答	1 (0.4)	一般病院の精神科	13 (5.8)
		精神科病院	4 (1.8)
		その他医療施設	20 (11.2)
		無回答	6 (2.7)
		受診頻度(n=226)	
		1~2週に1回くらい	64 (29.1)
		月に1回くらい	127 (57.7)
		2ヶ月に1回以下	11 (5.0)
		具合が悪くなった時だけ	2 (0.9)
		その他	10 (4.5)
		無回答	6 (2.7)
入院歴		入院回数(n=177)	
あり	177 (73.8)	1回	43 (24.3)
なし	61 (25.4)	2~4回	84 (47.5)
無回答	2 (0.8)	5回以上	39 (22.0)
		わからない・忘れた	9 (5.1)
		無回答	2 (1.1)

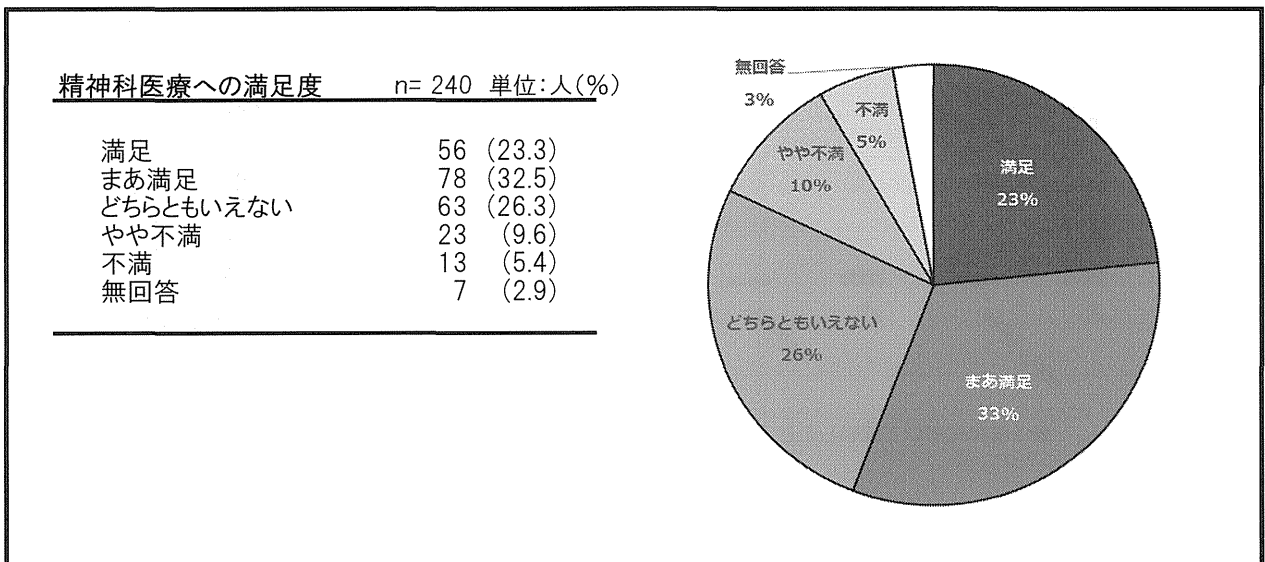


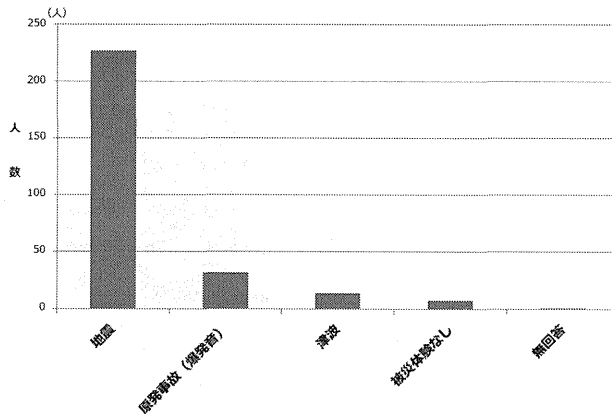
図7. 精神科医療への満足度の集計結果

表8. 東日本大震災による被災体験の状況

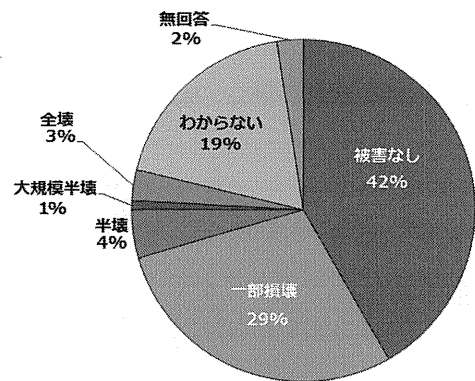
n= 240 単位:人(%)

東日本大震災において経験したこと※		
地震	227	(94.6)
原発事故(爆発音)	32	(13.3)
津波	14	(5.8)
被災体験なし	8	(3.3)
無回答	1	(0.4)
身近な人の喪失		
あり	21	(8.8)
なし	216	(90.0)
無回答	3	(1.3)
家屋被害認定の状況		
被害なし	100	(41.7)
一部損壊	69	(28.8)
半壊	11	(4.6)
大規模半壊	2	(0.8)
全壊	7	(2.9)
わからない	45	(18.8)
無回答	6	(1.3)
避難		
避難した	78	(32.5)
避難しなかった	155	(64.6)
無回答	7	(2.9)
避難回数(n=78)		
1回	38	(48.7)
2回	9	(11.5)
3回	8	(10.2)
4回	5	(6.4)
5回	2	(2.6)
6回	2	(2.6)
7回	2	(2.6)
8回	1	(1.3)
9回	1	(1.3)
無回答	17	(21.8)

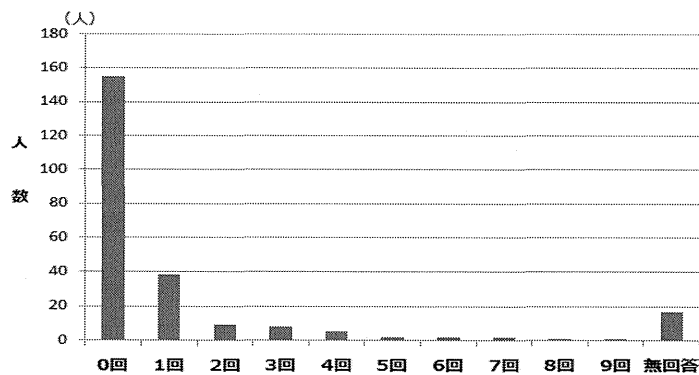
※は複数回答項目



図：震災において経験したこと



図：家屋被害認定の状況



図：震災による避難回数

表9. サポーター(主たる支援者)の震災前後比較(項目別)

n= 240 単位:人(%)

項目	震災前1年間				震災前		
	あり	なし	無回答		あり	なし	無回答
助けを必要とした時に実際に頼れそうな人	194 (80.8)	39 (16.3)	7 (2.9)	n.s.	199 (82.9)	32 (13.3)	9 (3.8)
リラックスするのを助けてくれる人	179 (74.6)	52 (21.7)	9 (3.8)	<<	191 (79.6)	38 (15.8)	11 (4.6)
長所も短所も含めてすべて受け入れてくれる人	165 (68.8)	66 (27.5)	9 (3.8)	<<	178 (74.2)	50 (20.8)	12 (5.0)
何があっても、あなたを気にかけてくれる人	173 (72.1)	58 (24.2)	9 (3.8)	<<	186 (77.5)	43 (17.9)	11 (4.6)
落ち込んでいる時、気分がよくなるよう助けてくれる人	168 (70.0)	61 (25.4)	11 (4.6)	<<	184 (76.7)	44 (18.3)	12 (5.0)
動揺している時、あなたを落ち着かせてくれる人	177 (73.8)	53 (22.1)	10 (4.2)	n.s.	180 (75.0)	56 (19.2)	14 (5.6)

検定: McNemar検定

注: 震災前後の比較 (McNemar検定) により、有意差が確認されたものについて、以下の記号を記した。

<<: 有意水準0.01以下で「現在」の方が有意に高得点 (サポーターありの者が多い)

n.s. 震災前後での有意差なし

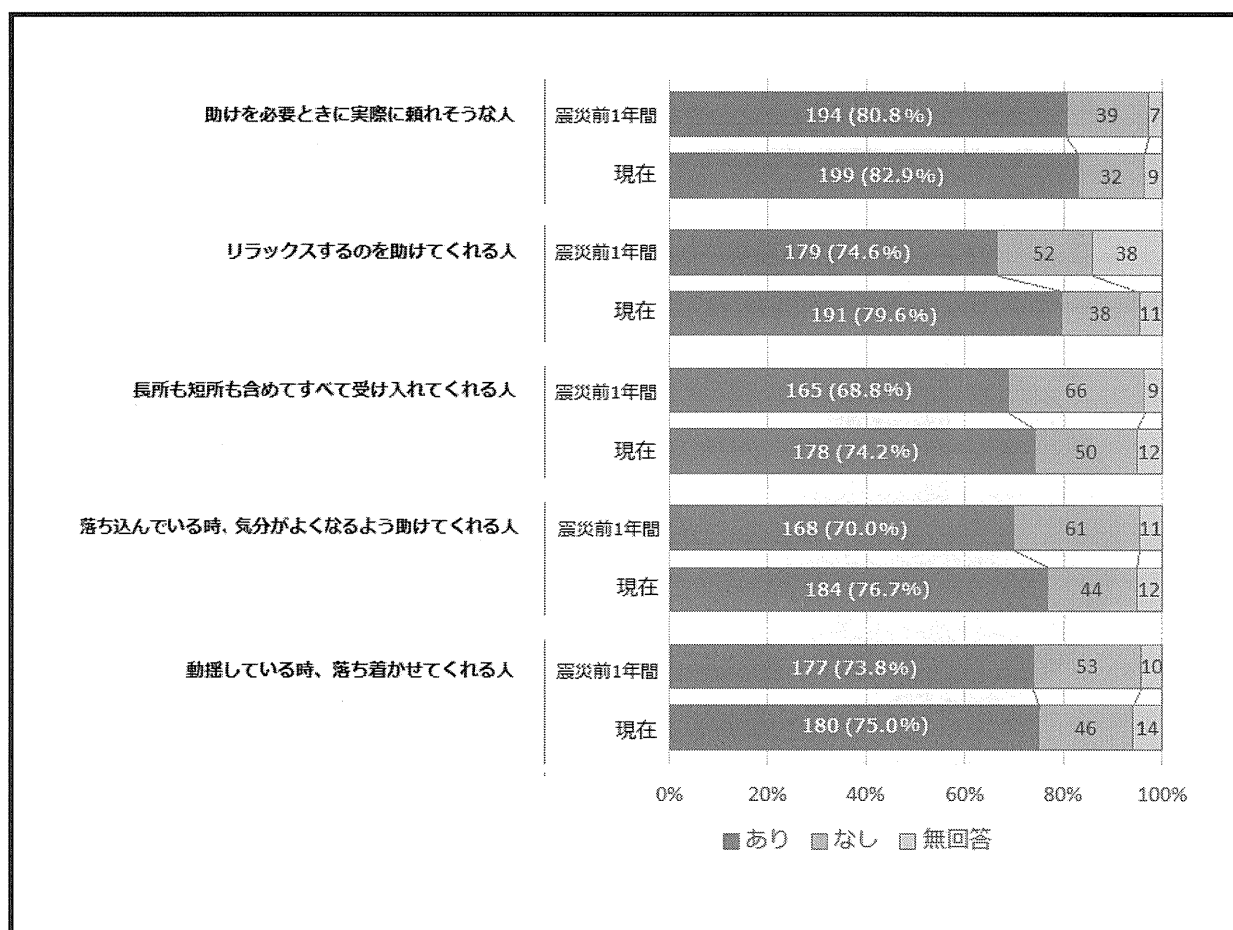


図10. 震災前後のサポーター(主たる支援者)の変化の状況(項目別)

図11-1 震災による生活の変化

n= 240 単位:人(%)

良くなった	10 (4.2)
少し良くなった	20 (8.3)
どちらとも言えない	144 (60.0)
少し悪くなった	27 (11.3)
悪くなった	32 (13.3)
無回答	7 (2.9)

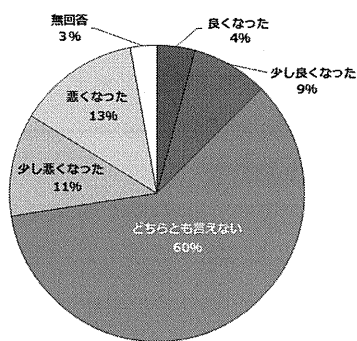


図11-2 震災による収入の変化

n= 240 単位:人(%)

増えた	52 (21.7)
変わらない	5 (2.8)
減った	20 (11.2)
無くなった	5 (2.3)
無回答	3 (1.4)

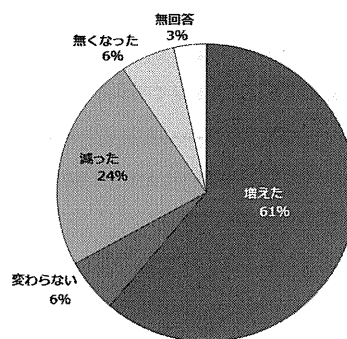


図11-3 震災による医療福祉サービスの変化

n= 240 単位:人(%)

良くなった	27 (11.3)
少し良くなった	28 (11.7)
どちらとも言えない	161 (67.1)
少し悪くなった	11 (4.6)
悪くなった	6 (2.5)
無回答	7 (2.9)

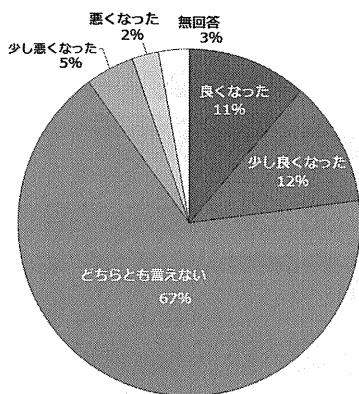


図11-4 震災による医療機関への通院の変化

n= 240 単位:人(%)

とても使いやすくなった	34 (15.5)
やや使いやすくなった	19 (8.6)
変わらない	147 (66.8)
やや使いにくくなった	12 (5.5)
とても使いにくくなった	5 (2.3)
無回答	3 (1.4)

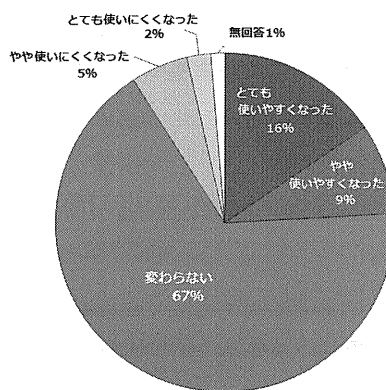


図11. 生活や精神科医療の利用状況に関する震災による変化

表12. 震災前後の社会資源活用状況の変化と今後の希望

n= 240 単位:人(%)

社会資源・サービス	震災前1年間			現在			今後			
	よく 利用した	利用した	無回答	よく 利用する	利用する	無回答	利用したい	利用 したくない	どちらとも いえない	無回答
入院	6 (2.5)	18 (7.5)	216 (90.0)	4 (1.7)	9 (3.8)	227 (94.6)	16 (6.7)	91 (37.9)	32 (13.3)	101 (42.1)
薬物療法	63 (26.3)	111 (46.3)	66 (27.5)	74 (1.7)	107 (44.6)	59 (94.7)	138 (57.5)	23 (9.6)	31 (12.9)	48 (20.0)
ショートステイ・レスパイト	2 (0.8)	1 (0.4)	237 (98.8)	0 (1.9)	3 (1.3)	237 (94.8)	40 (16.7)	60 (25.0)	36 (15.0)	104 (43.3)
入所・通所型生活訓練	11 (4.6)	19 (7.9)	210 (87.5)	19 (1.10)	33 (13.8)	188 (78.3)	73 (30.4)	37 (15.4)	37 (15.4)	93 (38.8)
ホームヘルプサービス	10 (4.2)	20 (8.3)	210 (87.5)	12 (1.11)	26 (10.9)	202 (84.2)	67 (27.9)	44 (18.3)	32 (13.3)	97 (40.4)
訪問型生活訓練	2 (0.8)	35 (14.6)	203 (84.6)	8 (3.3)	49 (20.4)	183 (76.3)	64 (26.7)	31 (12.9)	43 (17.9)	102 (42.5)
訪問看護、 医療関係者によるアウトリーチ等	7 (2.9)	36 (15.0)	197 (82.1)	13 (5.4)	36 (15.0)	191 (79.6)	74 (30.8)	23 (9.6)	42 (7.8)	101 (42.1)
作業所	37 (15.4)	49 (20.4)	154 (64.2)	52 (21.7)	71 (29.6)	117 (48.8)	120 (50.0)	16 (6.7)	30 (12.5)	74 (30.8)
デイケア	14 (5.8)	29 (12.1)	197 (82.1)	14 (5.8)	24 (10.0)	202 (84.2)	51 (10.0)	31 (12.9)	53 (22.1)	105 (43.8)
地域活動支援センター	20 (8.3)	56 (23.3)	164 (68.3)	28 (11.7)	72 (30.0)	140 (58.3)	113 (47.1)	12 (5.0)	26 (10.8)	89 (37.1)
ピアサポート	5 (2.1)	22 (9.2)	213 (88.8)	11 (4.6)	37 (15.4)	192 (80.0)	74 (30.8)	33 (9.6)	36 (15.0)	107 (44.6)
就労支援の事業所・施設	33 (13.8)	40 (16.7)	167 (69.6)	51 (21.3)	62 (25.8)	127 (52.9)	116 (48.3)	18 (7.5)	33 (13.8)	73 (12.9)
ジョブコーチ	0 (0.0)	9 (3.8)	231 (96.3)	1 (0.4)	9 (3.8)	230 (95.8)	62 (25.8)	30 (12.5)	31 (12.9)	117 (48.8)
ハローワーク／職業センター	6 (2.5)	18 (3.9)	216 (90.0)	6 (2.5)	20 (8.3)	214 (89.2)	59 (24.6)	32 (13.3)	40 (16.7)	109 (45.5)
グループホーム・ケアホーム	34 (14.2)	32 (14.2)	216 (90.0)	48 (20.0)	36 (15.0)	156 (65.0)	84 (35.0)	32 (13.3)	41 (17.1)	83 (34.6)
居住サポート事業	2 (0.8)	11 (4.6)	227 (94.6)	3 (1.3)	10 (4.2)	227 (94.6)	59 (24.6)	25 (10.4)	43 (17.9)	113 (47.1)

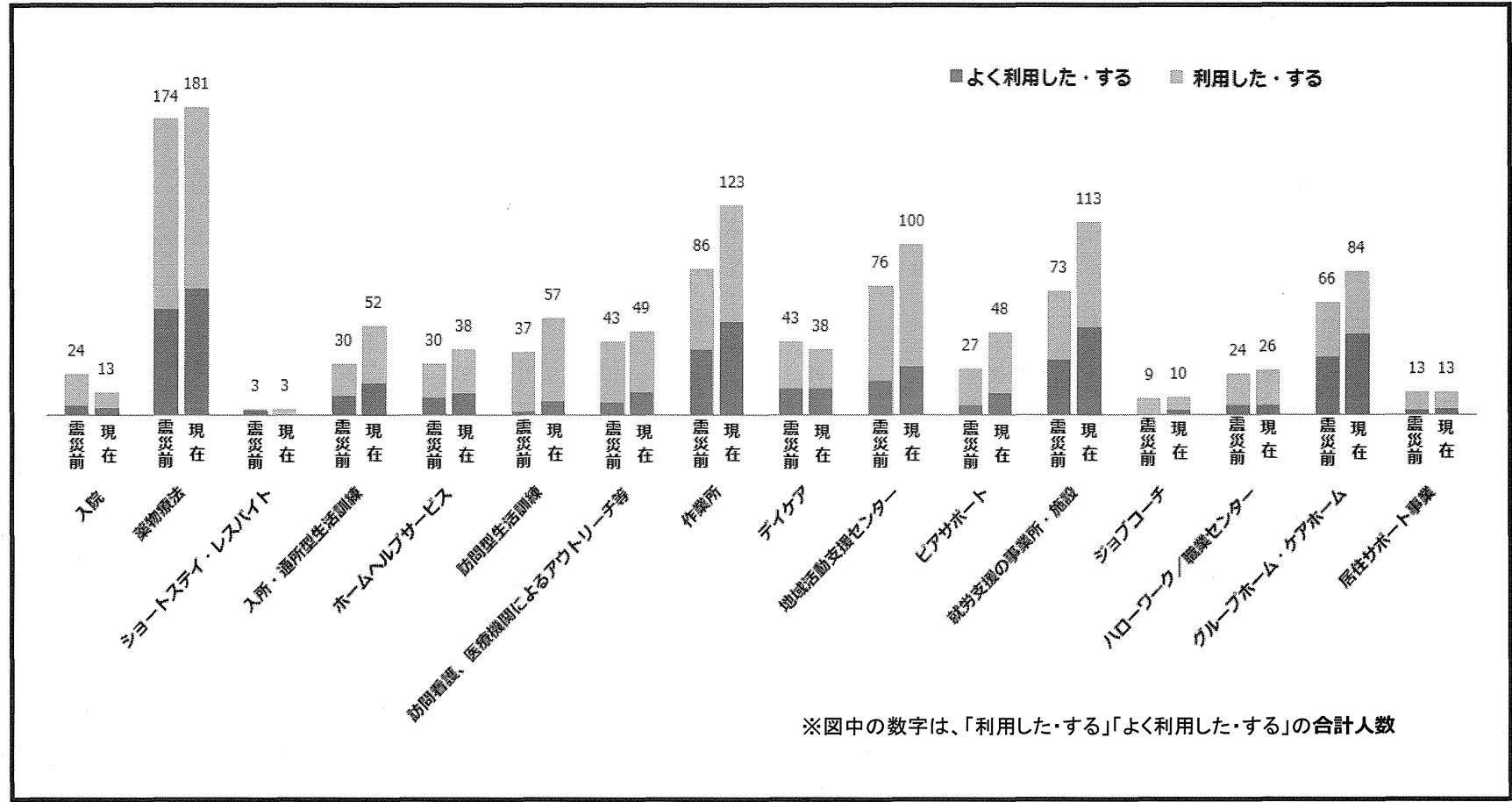
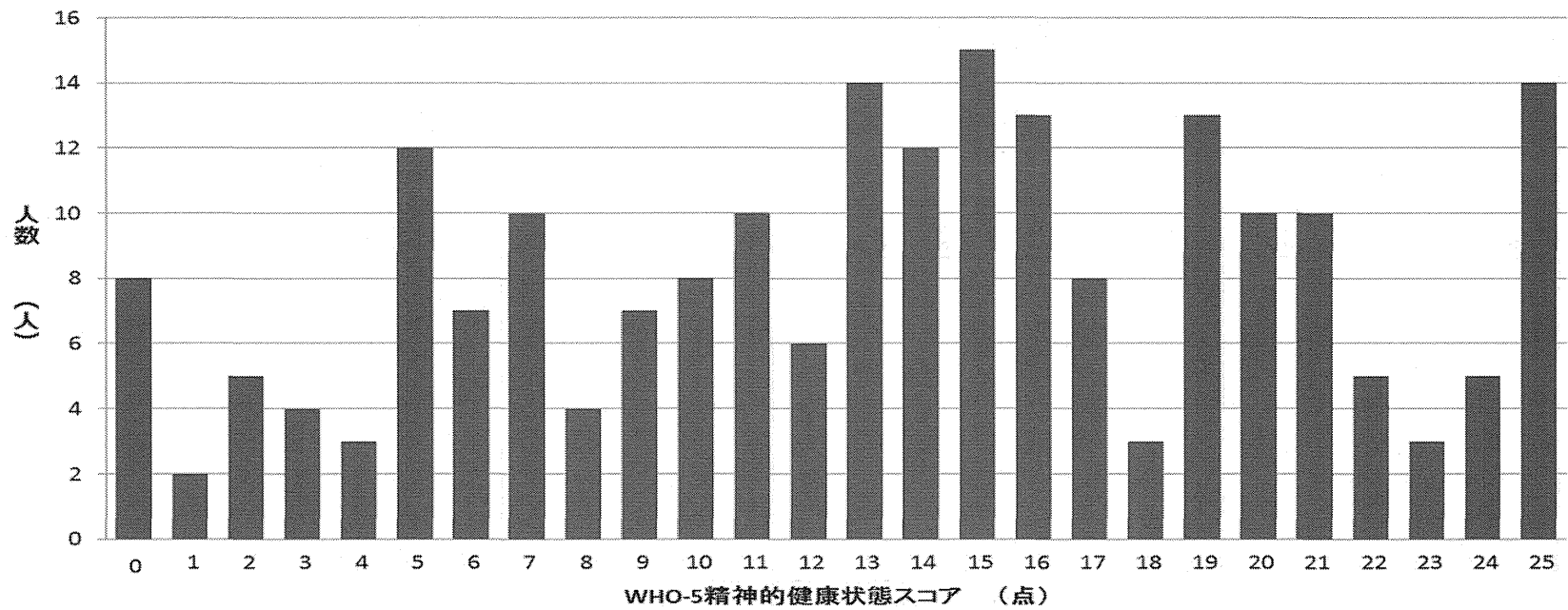


図13. 震災前後の社会資源活用状況の変化



精神的健康度 合計点 (点)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	計
人数 (人)	8	2	5	4	3	12	7	10	4	7	8	10	6	14	12	15	13	8	3	13	10	10	5	3	5	14	211
%	3.8	0.9	2.4	1.9	1.4	5.7	3.3	4.7	1.9	3.3	3.8	4.7	2.8	6.6	5.7	7.1	6.1	3.8	1.4	6.2	4.7	4.7	2.4	1.4	2.3	6.6	100.0

図14. 精神的健康度の分布

表15. 精神的健康度の属性別比較

		平均値	標準偏差	度数	群間比較
性別	男	13.9	6.6	138	n.s.
	女	12.6	7.2	69	
年代	20代	13.3	8.0	30	n.s.
	30代	14.6	6.4	53	
	40代	11.8	6.2	51	
	50代	14.0	6.8	41	
	60代	14.1	7.1	32	
居住地区	福島県内	13.5	6.9	208	n.s.
	福島県外	13.0	2.6	3	
住まい	持家	13.4	6.3	81	n.s.
	借家アパート	12.5	6.8	35	
	仮設住宅	9.0	10.3	5	
	入院中	15.0	7.8	4	
	その他	14.2	7.2	85	
津波経験	あり	18.9	6.4	198	**
	なし	13.1	6.8	198	
身近な人の喪失	あり	14.6	6.8	12	n.s.
	なし	13.4	6.8	190	
避難経験	なし	13.1	6.4	136	n.s.
	1回	15.1	6.1	33	
	2~4回	14.0	8.3	20	
	5回以上	12.4	8.1	7	
家屋損害認定結果	被害なし	14.0	6.9	85	n.s.
	一部損壊	13.3	6.3	63	
	半壊	10.9	6.8	10	
	大規模半壊	20.5	2.1	2	
	全壊	16.3	10.2	7	
	わからない	12.3	7.0	40	
現在の収入状況	定期的収入	13.7	6.7	178	n.s.
	不定期的収入	10.8	7.7	13	
	収入なし	10.7	7.3	15	
日中の過ごし方	家にいてほとんど何もしていない	10.3	7.2	12	n.s.
	家にいて家事	16.0	4.1	7	
	仕事学校	12.9	6.9	137	
	福祉関連施設・事業所、病院デイケア等	15.4	5.9	36	
	その他	15.0	8.6	15	

**: $P < 0.01$, n.s.:有意差なし, ()=SD
 検定:t検定, または一元配置分散分析, Post Hoc検定:Tukey

重い精神障害をもつ者における震災後の生活実態

～相双地域における精神保健福祉手帳所持者に対する調査の実施～

研究分担者 鈴木友理子¹⁾

研究協力者 種田綾乃²⁾ 深澤舞子¹⁾ 佐藤さやか²⁾ 吉田光爾²⁾ 永松千恵²⁾

1) 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 成人精神保健研究部

2) 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 社会復帰研究部

要旨

【目的】東日本大震災の被災地における、重い精神障害をもつ人の、震災にともなう変化や影響、震災後における生活実態、および本人や家族（主たるケア提供者）の認識するニーズを明らかにし、今後のよりよい地域生活のために必要な支援を明らかにすることを目的とする。

【方法】本調査は、南相馬市健康福祉部と共同で実施し、福島県南相馬市における精神障害者保健福祉手帳を所持している者全員（n=220）を本研究の対象として横断研究を行った。人口統計学的変数、東日本大震災の被災状況、精神障害をもつ人の生活領域、医療に関する情報、本人が認識する生活の満足度、ニーズ、今後の生活への希望領域の項目および、精神的健康度（World Health Organization-Five Well-Being Index）について対象者本人、あるいは支援者に回答を求めた。

【結果】平成26年1月に調査票を220名（精神障害者保健福祉手帳1級：30名、2級：138名、3級：52名）に発送した。平成26年2月末日現在、116件の回収があった（回収率：52.7%）。詳細については、現在解析中である。

【考察】本調査の回答率は52.7%であり必ずしも高くはないが、被災地域において、精神障害をもつ人本人を対象とした調査は、筆者が知る限りいままでも行われておらず、震災前後の生活状況およびその関連要因が明らかになることが期待される。

【結論】このような調査は初めての取り組みであり、重い精神障害をもつ人びとの大規模災害前後の生活実態を明らかにすることで、今後の保健福祉施策に資する基礎資料となるだろう。

A. 研究目的

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方の沿岸部をはじめとする広範囲な地域において、地域生活の基盤を破壊するようなきわめて甚大な被害をもたらした。地域精神保健医療福祉の現場においても例外ではなく、3年が経過しようとしている現在においても、地域精神保健システムの復旧や強化のために、中

長期にわたる継続支援が必要とされている地域は多数存在する。

本研究班では、平成24年度に被災地の精神保健医療福祉関連の機関・団体に従事する現地支援者に対するヒアリング調査をおこなった。それによれば、①震災により既存の福祉サービス網や精神科医療網の破壊が生じ、それらの復旧・復興が求められているが、さらに、②今回

の震災被災地は、従来から精神保健医療に関する社会資源が必ずしも十分ではなく、中長期的な視点での立て直しには、それを考慮したうえでの新たなシステムの設計が求められている現状が明らかになった¹⁾。特に、原子力発電所事故の影響を受けた福島県においては、人材の流出や社会資源の不足が顕著であり、地域のニーズ把握・整理が支援における重要な課題の一つとして指摘されている²⁾。

特に、福島県相双地域においては、壊滅的な被害を受けた資源を補うように、震災後にNPO 法人「相双に新しい精神科医療保健福祉システムを作る会」が設立され、精神科診療所と地域生活支援センターが創設され、震災型のアウトリーチ推進事業も受託している。しかしながら、支援活動を行う上で重い精神障害を持つ者の震災前後の状況や支援ニーズの把握は、情報不足から十分とは言えず、今後の調査が必要であることが現地支援者より挙げられた。

そこで、本研究では、東日本大震災による複合的かつ甚大な被害を受けた被災地の一地域（福島県南相馬市）において、重い精神障害をもつ者の、震災前後の生活実態に関する調査を行った。本研究により、被災地における重い精神障害をもつ人の震災前後の生活実態や支援ニーズを明らかにし、精神障害をもつ人のQOL（Quality of Life；生活の質）と関連する生活状況（地域の社会資源の利用など）を明らかにすることを目的とした。また、研究結果から、地域資源をどのように再構築することがQOLの向上につながるかの手掛かりが得られる可能性があり、今後の被災地における地域精神保健福祉活動のあり方に示唆を得ることが期待される。

B. 研究方法

1) 対象

東日本大震災の被災地の一自治体における重い精神障害をもつ者を対象とした。具体的には、福島県南相馬市における精神障害者保健福

祉手帳を所持している者を本研究の対象とした。対象者は220名であった。

本研究は、共同実施機関である南相馬市健康福祉部の福祉計画の改定をするための基礎資料とするために行われた。そこで、市内の精神障害者保健福祉手帳所持者全員を調査対象とし、未成年者も対象として含めた。

2) デザイン

本研究は、横断研究である。重い精神障害をもつ者とは、調査時点で南相馬市にて精神障害者保健福祉手帳を所持している者と定義して、この全数調査である。

3) 調査方法

本調査は、南相馬市健康福祉部と共同で実施した。調査票は、南相馬市健康福祉部より、調査対象者宛に郵送にて配布し、回収した。本研究では連結不可能匿名化したデータを解析した。

4) 調査項目

以下の領域の項目について対象者本人、あるいは支援者に回答を求めた。

- ・人口統計学的変数（年齢、性別、居住形態、世帯構成等）
 - ・東日本大震災による影響に関する項目（震災前後の情報、および震災による影響）
 - ・精神障害をもつ人の生活領域に関する客観情報（既存の研究「精神障がい者の生活と治療に関するアンケート（みんなねっとにより2010年実施）」をもとに作成）
 - ・医療に関する情報（診断、合併症、通院状況等）
 - ・本人が認識する生活の満足度、ニーズ、今後の生活への希望
 - ・精神的健康度（World Health Organization-Five Well-Being Index）
 - ・回答者について
- また、未成年者における特有の状況（発達障

害等の合併状況等) や必要な社会資源・サポートに関する項目も加えた。

なお、調査票および依頼文書等は資料 1-3 を参照されたい。

5) 分析計画

まず、震災による影響、生活実態に関する客観情報、ニーズ等を把握するために、それぞれの項目について集計を行う。

次に、精神的健康度を目的変数、その他の客観的な状況やニーズを説明変数・調整変数として関連要因を探る。

自由記述回答に関しては、質的分析を行う。

C. 結果

平成 26 年 1 月に調査票を 220 名 (精神障害者保健福祉手帳 1 級 : 30 名、2 級 : 138 名、3 級 : 52 名) に発送した。平成 26 年 2 月末日現在、116 件の回収があった (回収率 : 52.7%)。詳細については、現在解析中である。

D. 考察

重い精神障害をもつ人の生活実態を把握するためのいくつかの報告がある。まず、内閣府から、障害者白書が毎年報告されているが、精神障害者については、厚生労働省による実態調査が行われていないため、患者調査の報告を利用している。しかし、ここでの報告数は、医療機関を利用した精神疾患患者数であるために、日常生活や社会生活に制限を来している精神障害者の実態を正確に把握していない点が限界として述べられている³⁾。県レベルでその実態を把握する試みも行われているが、その取り組みはいくつかの先駆的な取り組みにとどまっている (埼玉県⁴⁾、奈良県⁵⁾)。また家族会が全国規模で行った調査 (みんなねっと調査^{6,7)})、地域家族会が行った調査 (和歌山県家族会による 66 名の家族を対象とした面接調査⁸⁾、沖縄

県において行われた 437 名の家族を対象とした調査⁹⁾) などが散見される。しかし被災地域において、精神障害をもつ人本人を対象とした調査は、筆者が知る限りいままでに行われていない。

E. 結論

東日本大震災による複合的かつ甚大な被害を受けた被災地の一自治体 (福島県南相馬市) において、重い精神障害をもつ者の震災前後の生活実態に関する調査を行った。本調査の回答率は 52.7% であり必ずしも高くはないが、このような調査は初めての取り組みであり、重い精神障害をもつ人びとの大規模災害前後の生活実態を明らかにすることで、今後の保健福祉施策に資する基礎資料となることが期待される。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

文献

- 1) 吉田光爾, 種田綾乃, 鈴木友理子, ほか : 被災地における地域精神保健医療福祉に関するニーズの実態. 厚生労働科学研究費補助金「東日本大震災の被災地における地域精神保健医療福祉システムの再構築に資する中長期支援に関する研究」(主任研究者 : 樋口輝彦) 総括研究報告書, 17-26, 2013.
- 2) 佐藤さやか, 種田綾乃, 鈴木友理子, ほか : 被災地における支援者に対する外部支

- 援の中長期的課題。厚生労働科学研究費補助金「東日本大震災の被災地における地域精神保健医療福祉システムの再構築に資する中長期支援に関する研究」（主任研究者：樋口輝彦）総括研究報告書，27-31，2013.
- 3) 内閣府.平成 25 年版 障害者白書（全体版）<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h25hakusho/zenbun/index.html>（2014.3.3.最終アクセス）
- 4) 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）精神障がい者の生活と治療に関するアンケート。
<http://seishinhoken.jp/researches/view/344>（2014.3.3.最終アクセス）
- 5) 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）2012（H24）年度「家族会」全国調査 <http://seishinhoken.jp/researches/view/419>（2014.3.3.最終アクセス）
- 6) 埼玉県障害者の生活実態に関するアンケート
ト<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/zittai/>（2014.3.3.最終アクセス）
- 7) 奈良県調査報道<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131115/nar13111502150003-n1.htm>（2014.3.3.最終アクセス）
- 8) 紀伊民報<http://www.agara.co.jp/modules/dailynews/article.php?storyid=244153>（2012年12月18日記事）（2014.3.3.最終アクセス）
- 9) 伊礼 優，栗栖 瑛子，當山 富士子，田場 真由美，大川 嶺子，新城 正紀，宮城 政也。沖縄県における精神障害者家族の社会的および健康状況と生活の実態 地域家族会会員調査から。沖縄県立看護大学紀要 8: 1-8(2007)

資料1:対象者への調査説明文書

「東日本大震災後の生活に関するアンケート」 ご協力のお願い

福島県南相馬市健康福祉部長

調査協力:独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

このアンケートの目的は…

このたび、精神保健福祉手帳をおもちの方を対象として、このアンケートをお送りさせていただきました。

2011年3月に発生しました東日本大震災では、南相馬市内でも多くの方が被災し、市民の生活を支える医療や福祉の面にも、多くの被害がありました。障がいをおもちながら生活されている方々の生活や利用されている支援にも大きな影響がありました。具体的などのような変化があったかということの詳細が、まだ把握しきれていないのが現状です。

このアンケートは、精神障がいをおもちの方々が、震災の前と後で、生活がどのように変化したのか、今どのようなことにお困りなのか、どのような手助けがあればもっと暮らしやすいとお考えなのか、といったことなどをお聞きすることを目的としております。

このアンケート調査の結果をまとめ、これからの南相馬市の医療や福祉などの計画に役立てたり、事業所のあり方をよりよくしたりすることに役立てることで、みなさまの暮らしを少しでもよいものにできるのではないかと考えております。

このアンケートに参加するには…

- ◆ このアンケートは、答えを記入して封筒に入れ、送り返していただくことで、アンケートに答えることに同意して参加していただいたこととなります。
- ◆ アンケートに答えるかどうかは、ご自分で自由にお決めください。答えなくても、何も不利益なことはありません。

このアンケートに答えるときには・・・

- ◆ アンケートへのご記入は、なるべく精神保健福祉手帳をおもちのご本人様にお願いいたします。
ただし、ご記入いただくことが難しい場合には、ご家族や支援者の方と話し合いながら、あるいはご家族や支援者の方が代理でご記入くださってもかまいません。
- ◆ このアンケートや封筒に、名前や住所などは書かないでください。
- ◆ 答えたくない質問には答えなくてもよいです。

このアンケートの結果は・・・

- ◆ ご記入していただいた内容は、厳重に管理いたします。個人情報 が外部に漏れることは一切ありません。
- ◆ このアンケートの分析は、国立精神・神経医療研究センターに委託します。
アンケートの回答内容は、市の障がい福祉計画策定の参考とするとともに、分析を委託する国立精神・神経医療研究センターにも研究のために提供することを、ご了承願います。
- ◆ この調査研究による成果は、学会発表や論文など、学術的な場のみで発表いたします。
そのときも、個人情報 が公表されることは一切ありません。

このアンケートにご参加いただける場合には・・・

アンケート用紙にご記入いただき、一緒にお配りしております返信用の封筒に入れ、
2014年2月14日(当日消印有効)までに、郵送してください。切手を貼る必要はありません。

※この調査研究は、国立精神・神経医療研究センターの研究事業を通じて実施しております。
ご不明な点等がございましたら、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

【本研究に関する問い合わせ先】

南相馬市健康福祉部／国立精神・神経医療研究センター 合同事務局
障がいをもつ人の東日本大震災後の生活に関するアンケート係
〒187-8553 東京都小平市小川東町四丁目1番1号
電話番号 (調査専用ダイヤル) 0120-××-××××
(受付時間： 10：00 ～ 18：00)

【その他の研究に関する連絡先】

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 倫理委員会事務局
〒187-8551 東京都小平市小川東町四丁目1番1号
e-mail : rinri-jimu@ncnp.go.jp

資料2:調査票

ひがしにほんだいしんさいご せいかつ 東日本大震災後の生活に関するアンケート

【ご回答に際してのお願い】

- 質問のなかにある「あなた」は「精神保健福祉手帳をお持ちのご本人」のことを意味します。
- このアンケート用紙に、あなたのお名前やご住所を書く必要はありません。
- ご記入は、なるべく精神保健福祉手帳をお持ちのご本人にお願いいたしますが、ご記入いただくことが難しい場合には、ご家族や支援者の方と話し合いながら、あるいは、ご家族や支援者の方が代理で、ご記入くださってもかまいません。
- 答えたくない質問や、わからない質問には、答えなくてもかまいません。

ご回答の記入は、

(1) あてはまる項目の数字に○印をつける。

(2) 記入欄 に数値を記入する。

方法でお願いいたします。

※この調査について、何かわからないことなどございましたら、下記までお問い合わせください。

南相馬市健康福祉部 / 調査分析委託先：(独) 国立精神・神経医療研究センター 合同事務局

担当窓口： 障がいをもつ人の東日本大震災後の生活に関するアンケート 係 (担当：種田)

住所： 〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1

電話番号： 0120-××-×××× (調査専用ダイヤル) (受付時間： 10:00 ~18:00)

～あなたの生活と、^{ひがしにほんだいいしんさい}東日本大震災（2011年3月11日）の^{えいきょう}影響について、おうかがいします～

問1 あなたは現在、どこにお住まいですか（あてはまる番号1つに○）。

1 福島県内	2 福島県外
--------	--------

問2 現在のお住まいの形式はどれになりますか（あてはまる番号1つに○）。

1 持家	2 借家・アパート	3 仮設住宅
4 借上げ住宅	5 親戚の家	6 グループホーム・ケアホーム
7 入院中	8 復興住宅	9 その他（ ）

問3 現在、どなたかと一緒に暮らしていますか。

1 はい（同居人数（自分を含む）： ）人	2 いいえ（一人暮らし）【→問4へ】
----------------------	--------------------

【1 と答えた方にお聞きします】

付問1 どなたと一緒に暮らしていますか（あてはまる番号すべてに○）。

1 親	2 兄弟・姉妹	3 祖父母
4 妻または夫	5 子ども	6 その他の親戚
7 知人・友達・恋人	8 その他（ ）	

問4 あなたの周りであなたを支えてくれる人（サポーター）の状況についてお聞きします。

^{ひがしにほんだいいしんさい}東日本大震災の前と現在の状況について、次のそれぞれの項目で当てはまるものに○を付けてください。

	A： ^{しんさいまえ} 震災前の状況	B： ^{げんざい} 現在
あなたが助けを必要としたときに、 実際に頼れそうな人	いた・いない	いる・いない
あなたがリラックスするのを 助けてくれる人	いた・いない	いる・いない
あなたの長所も短所も含めて すべて受け入れてくれる人	いた・いない	いる・いない
あなたに何があっても、 あなたを気にかけてくれる人	いた・いない	いる・いない
あなたが落ち込んでいる時、 気分がよくなるように助けてくれる人	いた・いない	いる・いない
あなたが動揺している時、 あなたを落ち着かせてくれる人	いた・いない	いる・いない